

## 原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和5年6月16日（金）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：黒川長官官房総務課長

### <本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから6月16日の原子力規制庁定例ブリーフィングを始めます。

○黒川総務課長 報道官の黒川です。

お手元の広報日程に沿って説明いたします。

まず、1の原子力規制委員会のところの（2）、6月22日に東京電力の経営層との意見交換があります。

議題は、柏崎刈羽の核物質防護についてということで、まず、東電の小早川社長のほうから取組の説明がありまして、その後、意見交換ということになります。

次が、2ページ、6月20日の（6）、第1161回審査会合です。

議題は1つで、高浜1・2号機の設工認ということで、使用済燃料ピット用の中性子吸収体の廃止という案件で、前は5月18日でしたけれども、そのコメント回答などです。

次が、6月20日の（7）、核燃料施設等のほうの審査会合です。

議題は1つで、日本原燃の再処理施設などの設工認ということで、前回、4月24日に続き地盤モデルの妥当性などということです。

3ページに行きまして、6月20日の（8）、訓練シナリオワーキンググループ。これは、訓練シナリオを議論するので非公開となっています。

全ての電力事業者が参加して年に2回行っている会合で、今回は、昨年度の取組と今年度の訓練方針ということになります。

次が、6月21日の（11）、1F（福島第一原子力発電所）事故の知見の規制への取り入れに関する事業者の意見聴取会合ということで、議題は水素防護について、事業者の取組のフォローアップということになります。

次が、6月22日の（12）、特定兼用キャスクの型式証明に関する審査会合です。

議題は2つで、三菱重工とトランスニュークリア社のキャスクの型式証明です。いずれも、前回、2月7日の続きということになります。

次が、6月22日の（13）、1Fの事故分析検討会です。

議題は4つで、1つ目は、ペDESTALの件なのですけれども、こちらは対応策というほうではなくて、物理的に何でこうなったのかという原因の議論をしていくほうです。

2つ目が、水素爆発に関する追加的検討とありますけれども、これは、これまでも長岡

科学技術大学に委託して、規制庁は水素燃焼試験をやってきたのですが、その今年度の試験の方針についてということです。

3つ目は、補機冷却系の件ですが、こちら配管がどうつながっていて、どう汚染が広がったかといった議論になります。

4つ目は、今後の事故調査全般の方針の議論ということになります。

次が、4ページ目の6月23日の（14）、第1162回の審査会合です。

議題は1つで、浜岡の地震動評価で、今回は震源を特定せずの関係ということで、前回、2月24日に同じ議論をしましたが、そのコメント回答などです。

次が、6月23日の（15）、行政事業レビューの外部有識者会合です。

これは6月9日に全省庁共通の公開プロセスというものをやりまして、そこで2つの事業のレビューをしましたが、今回、規制庁独自の有識者会合として、10事業のレビューを行うということになります。

最後が、5ページ目ですが、現地視察のところの（2）、6月24日の土曜日に山中委員長が1Fを視察します。見る場所は、ALPS（多核種除去設備）処理水の関連施設などとなっています。発表のとおり現地での取材が可能です。

こちらからは以上です。

#### <質疑応答>

○司会 皆様からの質問をお受けします。いつものとおり所属とお名前をおっしゃってから質問のほうをお願いいたします。質問のある方は手を挙げてください。

よろしいでしょうか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。ありがとうございました。

—了—